

第一講 重要古語と語法の確認

〈ポイント〉

(I) 重要古語の確認

A 読解力の視点と注意事項

- 1 助詞・助動詞をふくめて、七〇〇語ぐらいの重要古語をおぼえ、その重要古語を核としてはっきり意識しつつ古文を読むこと。
- 2 語法の柱とともに、この重要古語を古文読解のもう一つの大きな柱とすること。
- 3 常に辞書や単語集などを利用して、要領よく重点をおさえて学習すること。
- 4 重要古語で漢字をあてうるものは、漢字をあてて目からも意味をおぼえるようにする。
- 5 家庭で学習する時に、古文の場合は声を出して読むことも忘らないで、正しい読みを耳からも体得するように心掛ける。

B 設問形式への関連と対策

- 1 古文において、どんな形式の設問でも、その解法の鍵の大半は、語法の力か、またはこの重要古語の力によって得られる。
- 2 重要古語そのものを質問する「重要古語直訳型」の設問は多い。
- 3 古文の典型的設問である「傍線部解釈型」も、採点のポイントはこの重要古語の解釈の部分に置かれるわけである。
- 4 現代語訳を示してその古語を本文から摘出させる「古語復元型」も、勿論、重要古語の設問と言いうる。
- 5 古文でも漢字を書かせる「書き取り型」の設問があるが、それも重要古語の意味を尋ねるものなのである。
- 6 「読み付け型」の設問も重要古語中の、**家屋構造の名称・服装・官職**などに関するものが多く尋ねられる。答は一般に現代かなづかいでよい。
- 7 「傍線部説明型」でも、傍線部の重要古語・語法の解釈を解答の核としたうえで、全体の把握から補足説明を加える場合が多いから、注意すべきである。
- 8 「穴埋型」の場合、選択肢に重要古語を羅列している場合も多い。

典型問題

〔1〕 次の文章を読み、あとの問いに答えよ。

鬼のしこ草といへるは、むかし、人の親、子を二人もたりける。親うせにけるのち、恋ひ悲しぶこと、年をふれども忘らるることなし。むかしは、うせたる人をば、塚にをさめければ、恋しきたびに、あにをとと、うち具しつ、かの塚のもとにゆきむかひて、涙をながして、我が身にあるうれへをも嘆きをも、生きたる親などに向ひていはむやうに、いひつつ帰りけり。兄の男、年月つもりて、おほやけにつかへ、わたくしを顧るにも、たへがたき事どもありて、思ひけるやう、「ただにては、思ひなぐさむべきやうもなし。萱草わすれぐさといふ草こそ、人の思ひをば忘らかすなれ」とて、萱草を、その塚のほとりに植ゑつ。そののち、弟つねにきて、「A 美しいの御墓みほかへやまゐる」とさそひけれども、さはりがちになりて、具せずのみなりにけり。この弟の男、いと憂しと思ひて、A この人を恋ひ申すにこそかかりて、日をくらし、夜をあかしつれば、「我は忘れ申さじ」とて、「紫苑しそんといへる草こそ、心におほゆる事は B 忘れざなれ」とて、紫苑を、塚のほとりに植ゑてみければ、いよいよ忘るる事なくて、日をへてしあるきけるを見て、塚のうちに声ありて、「我は、その親のかばねをまもる鬼なり。ねがはくはおそるる事なかれ。君をまもらむと思ふ」と言ひければ、おそりながら聞き居りければ、「君

〔出典〕
○俊頼髄脳

〔本文出題歴〕

小樽商科大
立教大・営
大分大・教育
明治大・情報コミュニケーション

〔重要語句〕

- うす
- ふ（経）
- 具す
- うれへ
- おほやけ
- わたくし
- たふ
- ただなり
- やう
- ◎まゐる
- さはる
- いと
- 憂し
- ◎申す
- おぼゆ
- あるく
- まもる
- 居り
- 見ゆ

問二 〓部ア・イは、それぞれ誰のことか。

イ	ア

問三 ……部Aは、誰のどのような行動に対しての、どのような思いを述べたものか。

問四 ……部Bに含まれる助動詞を抜き出し、それぞれ文法的説明を加えよ。

問五 ……部Cの作品の編者名を漢字で記せ。

問六 親の死去後、兄弟はその悲しみにどのように対処したか、対比的に説明せよ。